

# ゆめみにゅーす



# YUMEMI ZOO



季刊 VOL. 46  
発行日 平成29年11月6日  
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園  
問い合わせ 044-588-4030

飼育展示数 哺乳類:24種153点  
鳥類:26種93点  
爬虫類:10種45点  
(平成29年10月末日現在)

## マーコールのスパーリングはじまりました

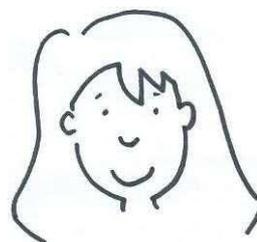
マーコールの繁殖期が始まりました。オスどうしがメスをめぐって、角を当てあう乾いた音がしばしば聞こえるようになります。角を当てるといって優しく聞こえますが、実際は、立ち上がって体重を乗せた上からの頭突きを、下にいる方が力いっぱい受け止める、迫力満点の闘いです。どちらかのタイミングがずれればどちらもただでは済まないの、「どちらが上でどちらが下をとるか」をお互い的確に察知して役割をこなしているように見え、プロレスのようです。もちろん、逃げればそのシーズンはボス争いから退場したとみなされます。

よく見ていると普段の立ち居振る舞いも1頭1頭個性があり、今年は誰がボスになるのかこれを書いている時点ではわからないものの、その戦局を見守る日々です。

ちなみに、この時期にしか味わえないのがきつくなってくるオスの体臭（と尿のにおい）です。これはなかなか言葉では表せないの、ぜひ近くで本物を皆さんにも体験してほしいと思います。



## 新任職員紹介



10月から動物園で働き始めた新任職員のご紹介です。

よく遊びに来ていた所で働けることになってとても嬉しいです。動物公園が皆さんにとっても大切な場所になるように一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。(飼育・松井乃梨子)

## 年賀状コンクールのお知らせ

来年も動物たちへの年賀状を募集します。いただいた年賀状は事務所に掲示し、スタッフによる投票で上位の方には商品を差し上げます。

あて先：〒212-0055 川崎市幸区南加瀬1-2-1

夢見ヶ崎動物公園「年賀状コンクール」あて

募集期間：平成30年1月1日(月)～1月7日(日)(必着)

掲示期間：平成30年1月14日(日)～1月21日(日)



## ★ピックアップ動物★

### ホンドタヌキ 哺乳綱 ネコ目 イヌ科

日本の山林や里山に生息し、小動物や果実などを食べる雑食性の動物で、特定の場所に糞をする「ため糞」の習性があります。日本固有種（日本にしか生息しない）です。外来生物（もともと日本に住んでいなかった動物）であるアライグマやハクビシンなどと食性、生息域などが重なることで生存競争が起き、近年数を減らしています。

当園のタヌキは 2015 年、赤ちゃんの時に子犬と間違っ保護されてしまい、野生に戻すことができなかった個体です。野生のタヌキは、ほかの動物が掘った穴や樹木の根本などを巣にして子育てを行います。ほかの動物が近づくとして巣が危険にさらされていると判断した母親が引っ越しをすることがあります。一度に4頭程度の子どもを産むので、まだ歩けない子どもを一度には運べません。そのため、何度かに分けて新居へ子どもを運んでいくのですが、新居が遠い場合は途中で子どもを適当な場所に隠して進んでいくこともあります。高速道路のサービスエリアのような感じでしょうか。このタヌキは、母親が隠したのが人通りの多い道路わきの側溝だったようで、見つけて集まってきた人間たちに驚いた母親が迎えに来られなくなったか、その前に人間が連れてきてしまったものと考えられます。

昔から日本人の生活になじみがあり、近くにいたはずのタヌキは、今でもおそらく皆さんが思っているより近くにいます。ただでびっくりされたり、その生態について知られなさすぎていたりするのは、すこし寂しいことだなと感じています。



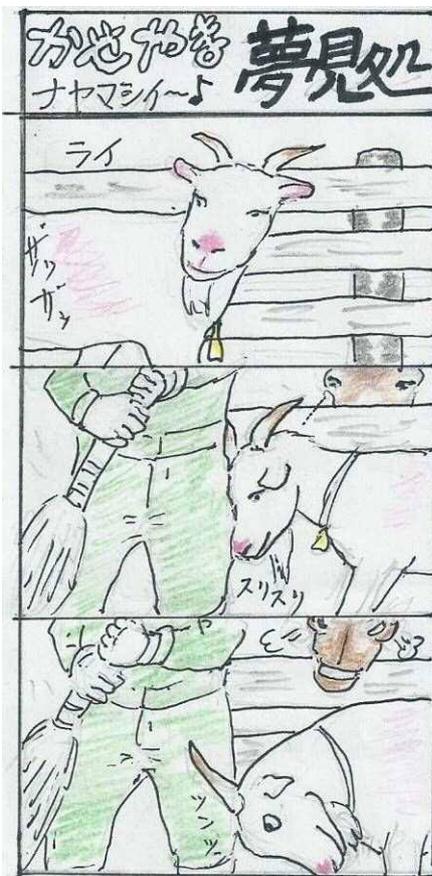
## 獣医の日記

動物園だからと言って飼育スペースの余裕や遺伝子の多様性を保つためなど、どんどん動物を増やせない場合もあり、当園の一部キツネザルたちも繁殖を制限するため、オスメスを分けて飼育しています。

2016 年のお正月、ブラウンキツネザルのオスが、展示場の地面を掘って仕切り網をくぐり、メスグループに入り込んだことがあり、その4ヶ月後のある朝、産まれていた赤ちゃんが発見されることとなりました。ところが翌日、赤ちゃんが衰弱して排水溝に落ちそうになっているのを危機一髪で発見、お母さんの母乳が出ていないことがわかり、人工哺育が始まりました。ついた名前は「こしあん」です。

キツネザルの人工哺育は初めてのことで、ミルクは犬用と人用をブレンドして、ちょうどよい配合が見つかるまで試行錯誤しました。ミルクの回数も、離乳のタイミングも、離乳食も、わずかな資料と、ほかの動物での経験と、勘を手掛かりに、半分手探りでしたが、もともと体が丈夫だったので、何とか無事に育ってくれました。

今は、顔をすっかり忘れてしまった産みの母たちと同居してキツネザルらしく生きていけるよう気長に練習中です。われわれ育ての父、母たちはわが子の自立と親離れ、子離れが寂しくてたまらないのですが、見守りながら応援していきます。



### ★動物たちの主な移動(平成29年8月1日～平成29年10月31日)★

ワタボウシパンシェ(♂1 死亡)、アカオヒメシャクケイ(♀1 死亡)、マーコール(♀1 死亡)、フンボルトペンギン(♀1 死亡)、ショウジョウインコ(♂1死亡)